

日本産アブ科雌成虫の分類(2)

誌名	東北農業試験場研究資料 = Miscellaneous publication of the Tohoku National Agricultural Experiment Station
ISSN	0387172X
著者名	早川,博文
発行元	農林省東北農業試験場
巻/号	10号
掲載ページ	p. 51-61
発行年月	1990年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



日本産アブ科雌成虫の分類

2. ヒゲナガサシアブ属及びゴマフアブ属

早川 博文

(平成元年2月23日受理)

Taxonomy of the Females of Japanese Tabanid Flies (Diptera:Tabanidae)

2. Genus *Isshikia* and genus *Haematopota*

Hirofumi HAYAKAWA

前報¹⁾に引続いて、日本産アブ科のヒゲナガサシアブ属2種、ゴマフアブ属12種の雌成虫の検索図を作成し、種の形態の特徴と分布について記述した。

1) ヒゲナガサシアブ属

Isshikia Shiraki, 1918

我が国からは、次の2種のみ記録されている。それらの種の検索図を、第1図に示した。本属はアブ

属に類似しているが、触角が特異な形態をしているので区別は容易である。頭幅は胸幅とほぼ同じである。複眼は微毛を欠き、生体では青緑色を呈し、3本の褐色横条紋がある。額は単眼瘤を欠き、下額瘤と中額瘤は融合して1個の細長い額瘤となっている。触角は頭長より短く、第3節の基部はかなり長く、その背突起は小突起の近くまで著しく伸びる。小顎鬚の第2節は細長い。後脚脛節の末端に距棘を欠く。いずれも中型種で、褐色～黒色である。

(1) ヒゲナガサシアブ

Isshikia japonica (Bigot, 1892)

(第2図)

体長13~16mm。胸背は黒褐色で、やや不明瞭な褐色縦条がある。腹部はやや長卵形、腹背は褐色であるが、下節ほど黒褐色～黒色となり、第2節以下には黄褐色の中央三角斑とかなり幅広い後縁斑があり、その後縁斑は側方で特に幅広い。翅はわずかに褐色にくすみ、縁紋は小さく明瞭、第5径室は開いており、R₁脈には小枝がない。頭幅は胸幅とほぼ同大。額はかなり狭く、高さが底幅の約9.0倍で、淡褐色である。下額瘤は小さく黒色長卵形で、それに融合する中額瘤は著しく細長く、額の3/4に達する。額三角区は淡褐色粉状である。触角は第3節の小突起が黒色のほかは橙黄色～淡褐色で、第1節は円筒状、第2節は盃状、第3節の基部は板状でかなり長く、その背突起は小突起の近くまで著しく伸びる。小顎鬚の第2節は淡褐色～灰褐色で細い。脚

ヒゲナガサシアブ属 *Isshikia*

腹背第1~3節は黄褐色で、その後縁は淡黄色である



ヒゲナガサシアブ
I. japonica

腹背各節は黒褐色～黒色で、その後縁は灰白色である



ヤジマサシアブ
I. yajimai

第1図 ヒゲナガサシアブ属の種の検索図

は脛節の大部分が黄褐色のほかは黒褐色～黒色である。

分布：本州，四国，九州

(2) ヤジマサシアブ

Isshikia yajimai Murdoch and Takahasi,
1961

(第3図)

体長13～17mm。胸背は黒褐色で、やや不明瞭な灰褐色縦条がある。腹部はやや長卵形、腹背は黒色であるが、第2節以下には灰白色の中央三角斑とやや幅広い後縁斑があり、その後縁斑は側方で特に幅広く、また標本によっては第2節に褐色の亜側斑がある。その他の特徴は上記ヒゲナガシアブと同様である。

分布：本州，九州

2) ゴマフアブ属

Haematopota Meigen, 1803

我が国からは、次の12種が記録されている。それらの種の検索図を、第4～7図に示した。本属はアブ科の中でも特異な形態をしており、頭幅が胸幅よ

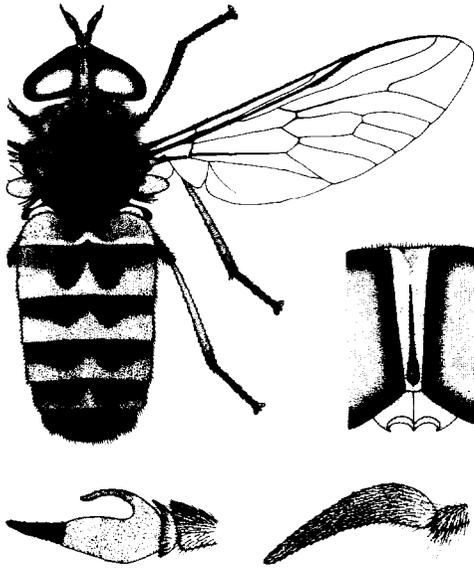
り大きく、胸、腹が全体に細長い。翅は黒褐色～褐色で、属特有の多数の点状半透明白斑がある。複眼は微毛を欠き、生体では青緑色で、多数の褐色稲妻状紋がある。額は著しく幅広く、頭幅のほぼ3分の1を占め、大きな1個の額瘤と1対の額側斑があり、また額中央斑があるものとなないものがある。触角は頭長よりかなり長く、第3節の基部は一般に細長く、その小突起は3節である。小顎鬚の第2節は太いか、やや細い。後脚脛節の末端に距棘を欠く。本属の種は一般に小型で、また色彩も褐色～黒褐色である。

(1) シベリアゴマフアブ

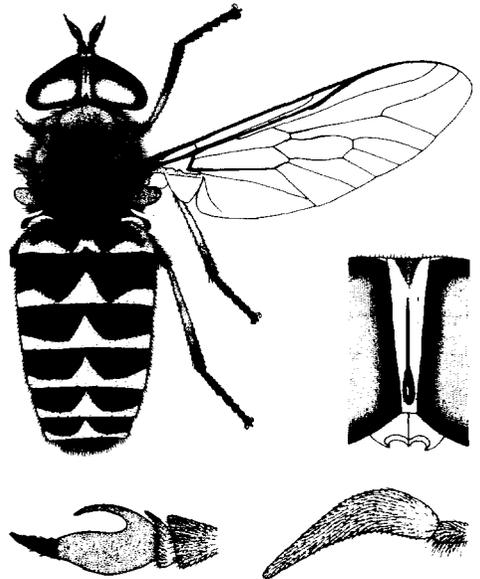
Haematopota tamerlani (Szilady, 1923)

(第8図)

体長10～13mm。胸背、腹背とも黒色で、胸背には三本の明瞭な灰白色縦条があり、腹背第2節以下には灰白色のやや不明瞭な中央縦条と明瞭な幅狭い後縁斑、及び第4節以下には灰白色の点状亜側斑がある。腹部はかなり長い卵形。翅は黒褐色で、縁紋は大きく明瞭、やや大きな多数の点状白斑があり、R₁脈には小枝がある。頭幅は胸幅より大きい。額

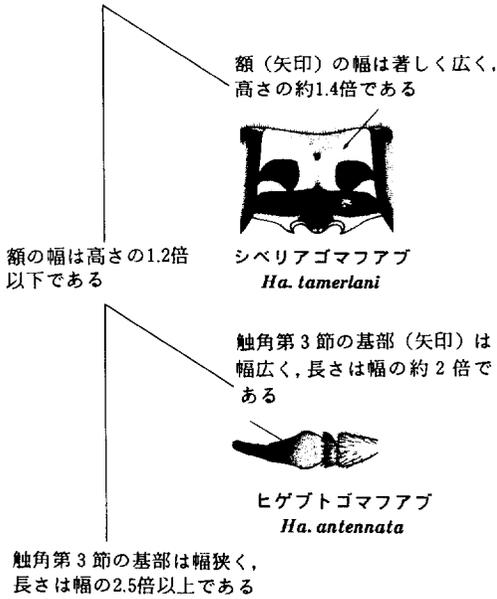


第2図 ヒゲナガシアブ *Isshikia japonica* 雌成虫

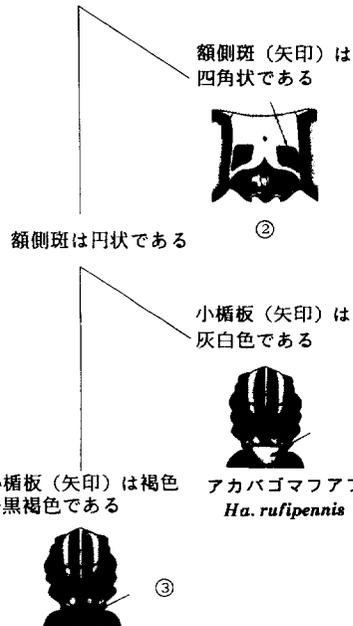
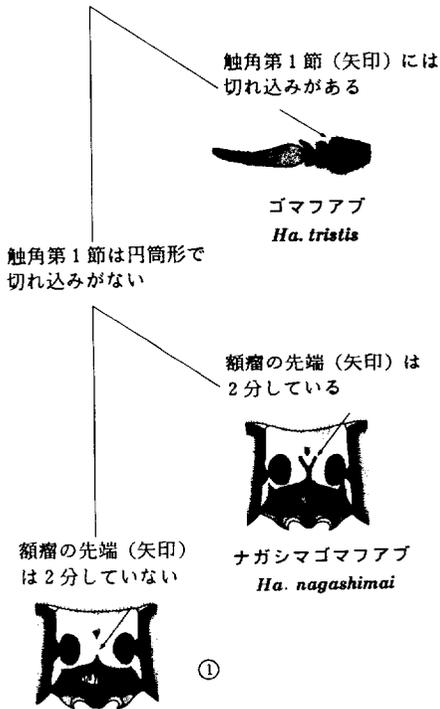
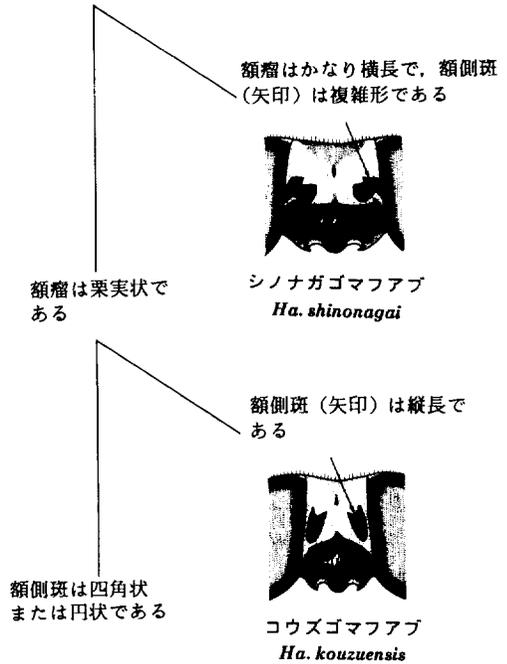


第3図 ヤジマサシアブ *Isshikia yajimai* 雌成虫

ゴマフアブ属 *Haematopota*

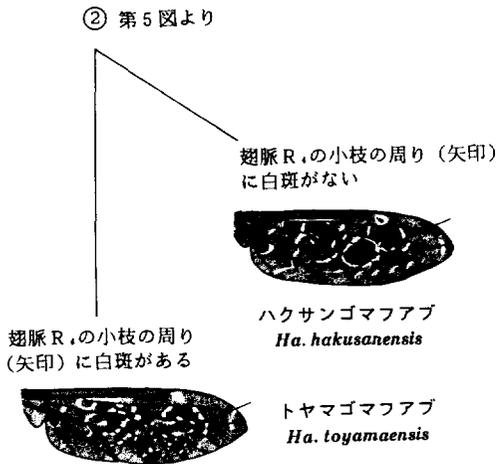


① 第4図より

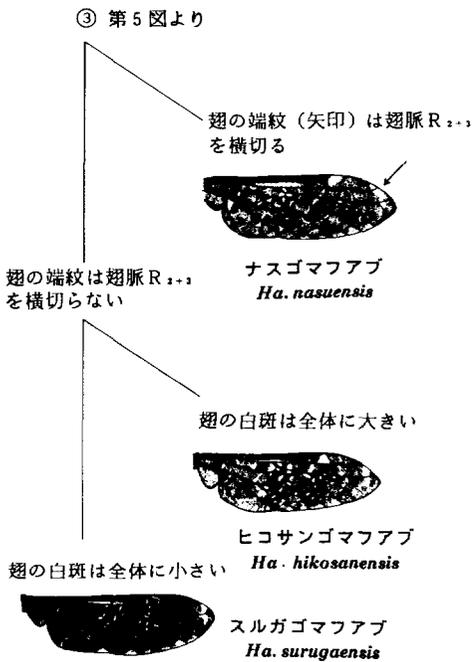


第4図 ゴマフアブ属の種の検索図(その1)

第5図 ゴマフアブ属の種の検索図(その2)



第6図 ゴマフアブ属の種の検索図(その3)



第7図 ゴマフアブ属の種の検索図(その4)

は著しく広く、高さが底幅の約0.7倍で上方にやや狭く灰白色で、頭頂部は暗灰色である。額瘤は黒色著しく横長で、額側斑は黒色ほぼ三角状、また額中央斑は黒色小さく明瞭である。額三角区は黒色粉状である。触角は全体ほぼ黒色で、第1節は先端部がすぼんだ円筒状、第2節は盃状、第3節は著しく細長い。小顎鬚の第2節は淡灰褐色でやや太い。脚は前脛節に1個、中後脛節に各2個の淡褐色部があるほかは黒褐色～黒色である。

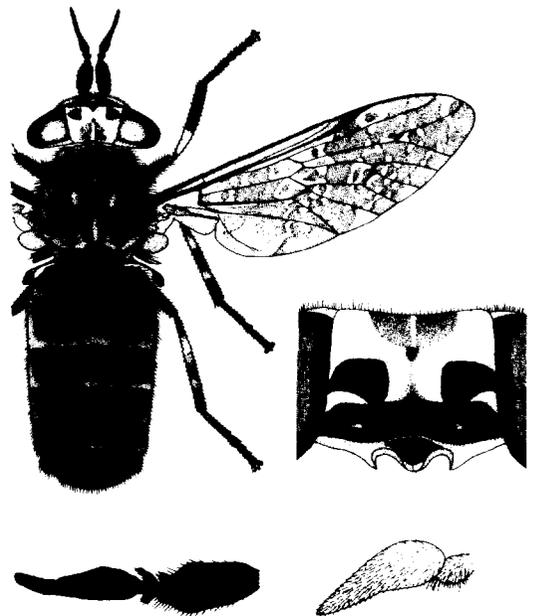
分布：北海道；樺太，朝鮮，中国東北地区，ウズリー，モンゴル

(2) ヒゲフトゴマフアブ

Haematopota antennata (Shiraki, 1932)

(第9図)

体長9～11mm。胸背、腹背とも暗褐色で、胸背には三本のやや明瞭な淡灰色縦条が、腹背第2節以下には淡灰色の明瞭な中央縦条、幅狭い後縁斑及びやや大きな亜側円状斑がある。腹部はかなり長い卵形。翅は褐色で、縁紋は大きく明瞭、やや大きな多数の点状白斑が、また後縁の大部分にも白斑があり、R₁脈には小枝がある。頭幅は胸幅より大きい。額



第8図 シベリアゴマフアブ *Haematopota tamerlani* 雌成虫

はかなり広く、高さが底幅の約1.2倍で側縁がほぼ平行、淡褐色で、頭頂部がやや暗色である。額瘤は黒色栗実状で、額側斑は黒色ほぼ四角状、また額中央斑は黒色三角状で明瞭である。額三角区は褐色粉状である。触角は全体ほぼ褐色～橙褐色で、第1節は円筒状、第2節は盃状、第3節の基部は板状でやや短い。小顎鬚の第2節は淡黄褐色でやや細い。脚は前脛節に1個、中後脛節に各2個の淡黄褐色部があるほかは褐色～黒褐色である。

分布：対馬；朝鮮，中国，中国東北地区

(3) ゴマフアブ

Haematopota tristis Bigot, 1981

(第10図)

体長 8～12mm。胸背、腹背とも黒褐色で、胸背には3～5本のやや明瞭な淡灰色縦条があり、腹背第2節以下には淡灰色の中央縦条、後縁斑及びやや不明瞭円状の垂側斑がある。腹部はかなり長い卵形。翅は褐色で、縁紋はやや小さく明瞭、大きな多数の点状白斑が、また後縁にも白斑があり、R₁脈には小枝がある。頭幅は胸幅より大きい。額はかなり広く、高さが底幅の約1.2倍で上方にやや狭まり淡灰

色で、頭頂部がやや暗色である。額瘤は黒色～黒褐色横長で、額側斑は黒色ほぼ半円状、また額中央斑は黒色点状で明瞭である。額三角区は黒褐色粉状である。触角は第3節の基部が橙褐色のほかは黒褐色～黒色で、第1節は先端近くに切れ込みがある円筒状、第2節は盃状、第3節は著しく細長い。小顎鬚の第2節は淡灰黄色で、やや太い。脚は前脛節に1個、中後脛節に各2個の淡黄褐色部があるほかは褐色～黒色である。

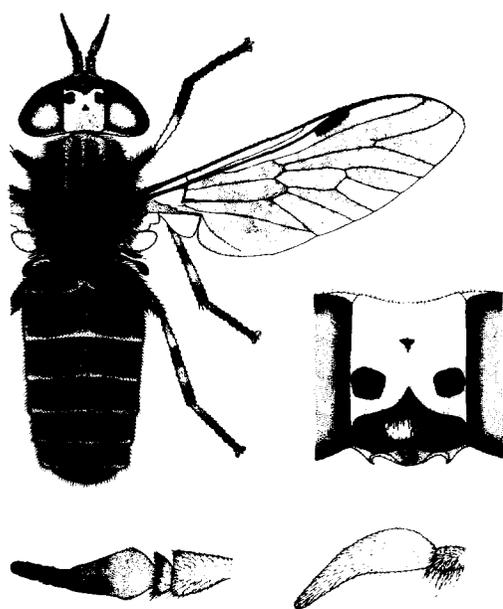
分布：北海道，本州（東北地方）；樺太，シベリア

(4) ナガシマゴマフアブ

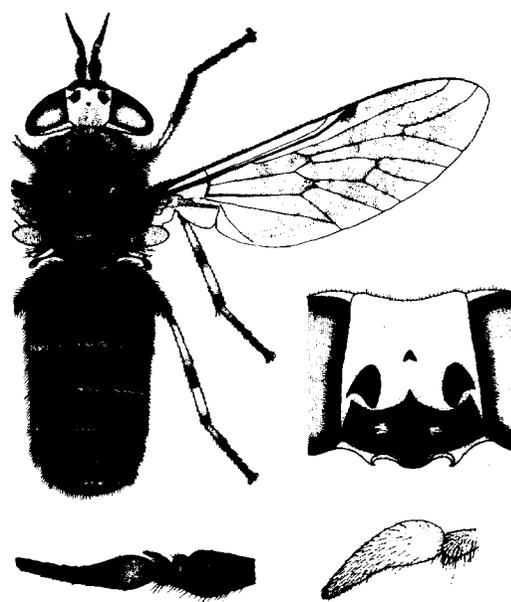
Haematopota nagashimai Hayakawa and Takahasi, 1976

(第11図)

体長 9～11mm。胸背、腹背とも黒褐色で、胸背には3本のやや明瞭な淡灰色縦条があり、腹背には特別な斑紋がない。腹部は長卵形。翅は褐色で、縁紋は大きく明瞭、小さな多数の点状白斑が、また後縁にも白斑があり、R₁脈には小枝がある。頭幅は胸幅より大きい。額はかなり広く、高さが底幅の約



第9図 ヒゲフトゴマフアブ *Haematopota antennata* 雌成虫



第10図 ゴマフアブ *Haematopota tristis* 雌成虫

1.2倍で側縁がほぼ平行、淡灰色で、頭頂部がやや暗色である。額瘤は黒色栗実状で、上端は伸びて2分し、額側斑は黒色ほぼ円状、また額中央斑は黒色ひし形で明瞭である。額三角区は黒褐色粉状である。触角は全体ほぼ黒褐色で、第1節は円筒状、第2節は盃状、第3節は著しく細長い。小顎鬚の第2節は淡褐色で、やや細い。脚は前脛節に1個、中後脛節に各2個の淡黄褐色部があるほかは黒褐色である。

分布：本州（東北地方）

(5) シノナガゴマフアブ

Haematopota shinonagai Hayakawa,

1977

(第12図)

体長11mm。胸背、腹背とも黒褐色で、胸背には3本のやや明瞭な淡灰色縦条があり、腹背各節の後縁には幅狭い淡灰色斑がわずかにある。腹部はかなり長い卵形。翅は褐色で、縁紋は大きく明瞭、大きな多数の点状白斑があり、R₁脈には小枝がある。頭幅は胸幅より大きい。額はかなり広く、高さが底幅の約1.0倍で上方にやや狭まり、淡灰色で、頭頂

部がやや暗色である。額瘤は黒色ほぼ横長四辺形で、額側斑は黒色複雑形、また額中央斑は黒色紡錘形で明瞭である。額三角区は黒褐色粉状である。触角は第3節基部が橙褐色の他は黒褐色～黒色で、第1節は円筒状、第2節は盃状、第3節は著しく細長い。小顎鬚の第2節は淡灰褐色でやや細い。脚は前脛節に1個、中後脛節に各2個の淡黄褐色部があるほかは褐色～黒色である。

分布：本州（中部地方）

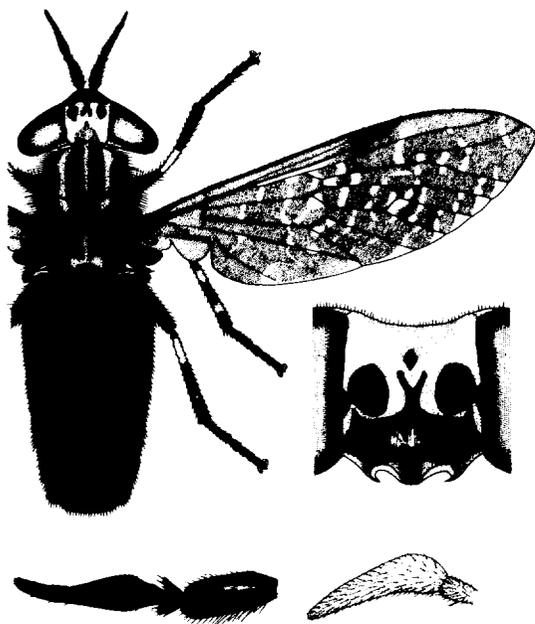
(6) コウズゴマフアブ

Haematopota Kouzuensis (Takahasi,

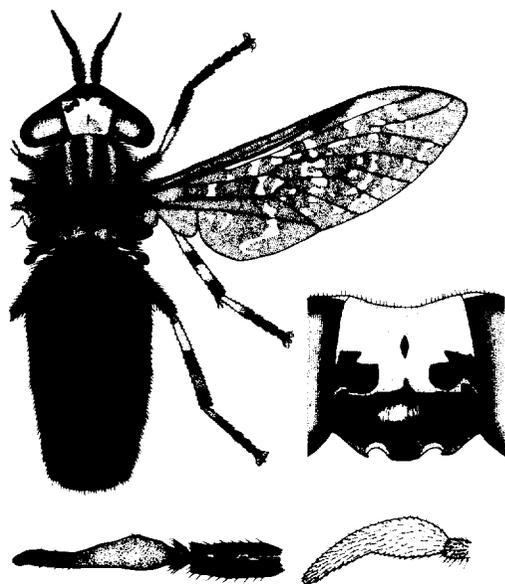
1950)

(第13図)

体長10～12mm。胸背、腹背とも黒褐色で、胸背には3本のやや明瞭な淡灰色縦条があり、それらの縦条の間も淡色で、全体が帯状斑を呈し、腹背の各節には不明瞭なやや幅広い灰色縦条と後縁斑があり、また4節以下には不明瞭な灰色亜側斑がある。腹部は著しく長卵形。翅は褐色で、縁紋はやや小さく明瞭、やや大きな多数の点状白斑が、また後縁にも白



第11図 ナガシマゴマフアブ *Haematopota nagashimai* 雌成虫



第12図 シノナガゴマフアブ *Haematopota hinonagai* 雌成虫

斑があり、R₁脈には小枝がある。頭幅は胸幅よりやや大きい。額は広く、高さが底幅の約1.3倍で上方にやや狭まり、淡灰色である。額瘤は黒褐色栗実状で、額側斑は黒色楕円ないし上端が凹んだ楕円状で、また額中央斑は黒色点状で明瞭である。触角は第3節の基部が橙褐色のほかは褐色～黒褐色で、第1節は円筒状、第2節は盃状、第3節は基部がやや幅広く著しく長い。小顎鬚の第2節は黄褐色でやや太い。脚は前脛節に1個、中後脛節に各2個の淡黄褐色部があるほかは褐色～黒褐色である。

分布：本州。

(7) アカバゴマフアブ

Haematopota rufipennis Bigot, 1981

(第14図)

体長8～12mm。胸背は黒褐色で、3本の明瞭な淡灰色縦条があり、小楯板も淡灰色である。腹部はかなり長い卵形、腹背は黒色で、各節には幅狭い淡灰色後縁斑があり、その後縁斑は第2節で中央と側方がやや幅広い。翅は褐色で、縁紋はやや大きく明瞭、やや小さな多数の点状白斑が、また後縁の一部

にも白斑があり、R₁脈には小枝がある。頭幅は胸幅より大きい。額はかなり広く、高さが底幅の約1.2倍で上方にやや狭まり、淡灰色である。額瘤は黒色やや横長栗実状で、額側斑は黒色ほぼ卵形、また額中央斑はやや大きく黒色三角状で明瞭である。額三角区は黒褐色粉状である。触角は全体ほぼ黒褐色～黒色で、第1節は円筒状、第2節は盃状、第3節は著しく細長い。小顎鬚の第2節は淡灰褐色でやや太い。脚は前脛節に1個、中後脛節に各2個の淡褐色部があるほかは褐色～黒褐色である。

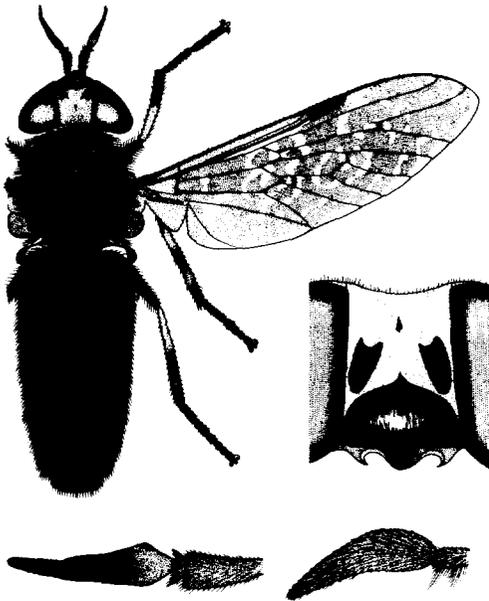
分布：本州、四国、九州

(8) ハクサンゴマフアブ

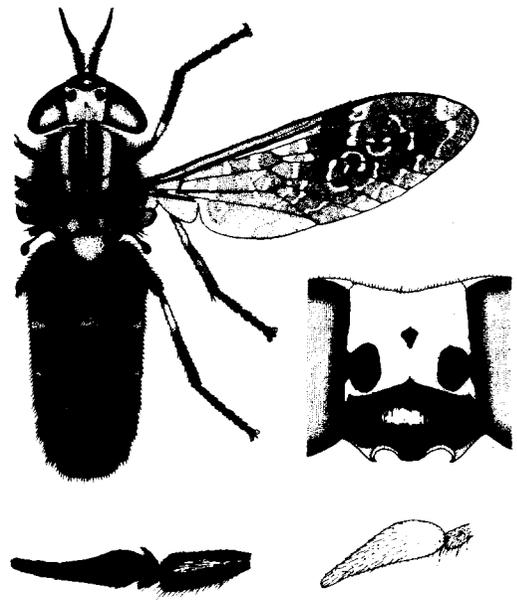
Haematopota hakusanensis Togashi, 1977

(第15図)

体長11mm。胸背、腹背は黒褐色で、胸背には3本のやや明瞭な淡灰色縦条があり、腹背各節には幅狭い淡灰色後縁斑がある。腹部はかなり長い卵形。翅は褐色で、縁紋はやや小さく明瞭、やや小さな点状白斑が小数あるだけで、R₁脈には小枝があり、



第13図 コウズゴマフアブ *Haematopota kouzuensis* 雌成虫



第14図 アカバゴマフアブ *Haematopota rufipennis* 雌成虫

その付近には白斑がない。頭幅は胸幅より大きい。額はかなり広く、高さが底幅の約1.1倍以上で上方にやや狭まり、淡灰色で、頭頂部がやや暗色である。額瘤は黒色栗実状で上端がかなり突出し、額側斑は黒色ほぼ四辺形、また額中央斑は黒色三角点状で明瞭である。額三角区は黒褐色粉状である。触角は全体ほぼ黒褐色～黒色で、第1節は円筒状、第2節は盃状、第3節は著しく細長い。小顎鬚の第2節は淡灰黄色でやや細い。脚は前後脛節に各1個、中脛節に2個の淡黄褐色部があるほかは褐色～黒色である。

分布：本州（中部地方）

(9) トヤマゴマフアブ

Haematopota toyamaensis Watanabe,
Kamimura and Takahasi, 1976

(第16図)

体長8～9mm。胸背、腹背とも黒褐色で、斑紋は前記ハクサンゴマフアブに酷似する。しかし本種は翅に点状白斑が多数あり、特にR₄脈の小枝近くに明瞭な白斑がある。額瘤は黒色栗実状であるが、上端はあまり突出せず、額中央斑を欠く。小顎鬚の第2

節は淡褐色でやや太い。その他の特徴は、本種がより小型である点を除いて、ハクサンゴマフアブとほぼ同様である。

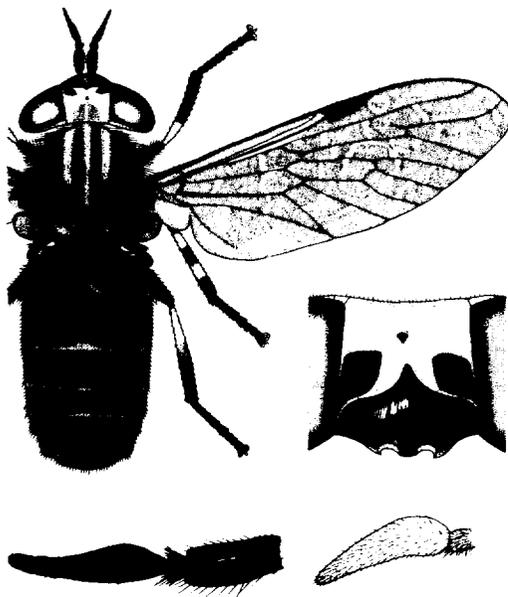
分布：本州（中部地方）

(10) ナスゴマフアブ

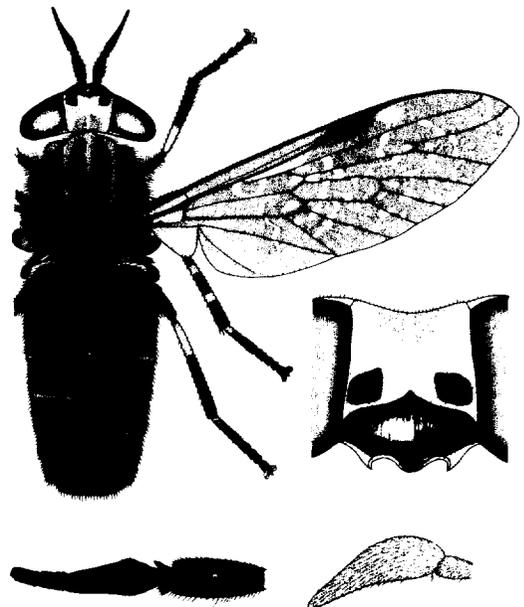
Haematopota nasuensis Hayakawa
and Moriyama, 1981

(第17図)

体長9mm。胸背、腹背とも黒褐色～黒色、胸背には3本のやや不明瞭な淡灰色縦条があり、腹背には斑紋が全くない。腹部はかなり長い卵形。翅は褐色で、縁紋は大きく明瞭、小さな小数の点状白斑が、また後縁の一部にもわずかな白斑があり、R₄脈には小枝がある。特に本種では翅端の白斑がR₄₊₅脈に及ぶ。頭幅は胸幅より大きい。額はかなり広く、高さが底幅の約1.1倍以上で上方にやや狭まり淡灰色で、頭頂部がやや暗色である。額瘤は黒色栗実状で、額側斑は黒色卵形、額中央斑は黒色で小さくやや不明瞭である。額三角区は黒褐色粉状である。触角は全体ほぼ黒褐色～黒色で、第1節は円筒状、第2節は盃



第15図 ハクサンゴマフアブ *Haematopota hakusannsis* 雌成虫



第16図 トヤマゴマフアブ *Haematopota toyamaensis* 雌成虫

状，第3節は著しく細長い。小顎鬚の第2節は淡褐色でやや細い。脚は前脛節に1個，中後脛節に2個の淡黄褐色部があるほかは黒褐色～黒色である。

分布：本州（関東地方）

(11) ヒコサンゴマフアブ

Haematopota hikosanensis Hayakawa and Takahasi, 1977

(第18図)

体長9～10mm。胸背，腹背とも黒褐色で，胸背には3本のやや明瞭な淡灰色縦条があり，小楯板も灰色味を帯び，腹背には斑紋がない。本種はナスゴマフアブに酷似するが，翅の点状白斑はやや大きく多数あり。翅端の白斑は R_{2+3} 脈に及ばない。額側斑はほぼ円状で，額中央斑は大きく明瞭である。脚の後脛節には明瞭な淡灰色部が1個ある。その他の特徴はナスゴマフアブとほぼ同様である。

分布：四国，九州

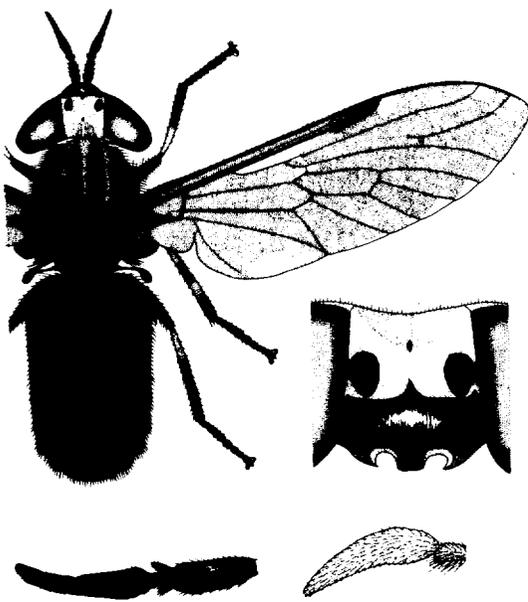
(12) スルガゴマフアブ

Haematopota surugaensis Hayakawa and Takahasi, 1977

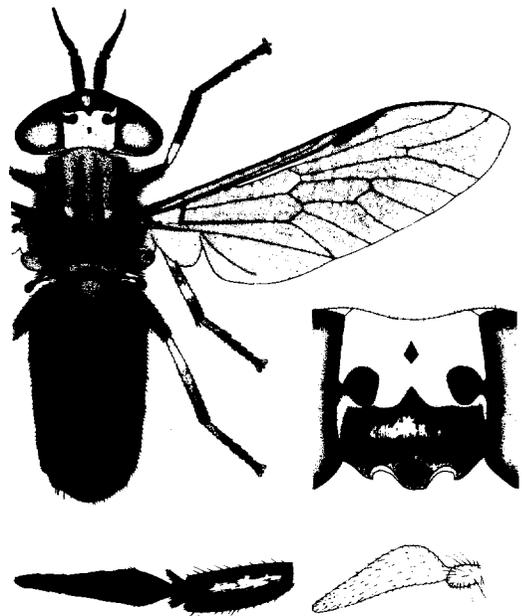
(第19図)

体長9mm。本種も胸背，腹背の色彩と斑紋がナスゴマフアブに酷似するが，以下の点で異なる。腹部は著しく細長く，腹背第2節以下にわずかながら淡灰色後縁斑がある。額瘤は栗実状であるが，上端が棒状に突出し，額側斑はほぼ円形である。最も大きな違いは翅の点状白斑が本種では著しく小さく，多数あり，翅端の白斑は R_{2+3} 脈に及ばないことにある。その他の特徴は，ナスゴマフアブとほぼ同様である。本種とヒコサンゴマフアブの違いも，最大の特徴は翅の点状白斑にある。また額中央斑も本種では小さく点状である。

分布：本州（東海地方）



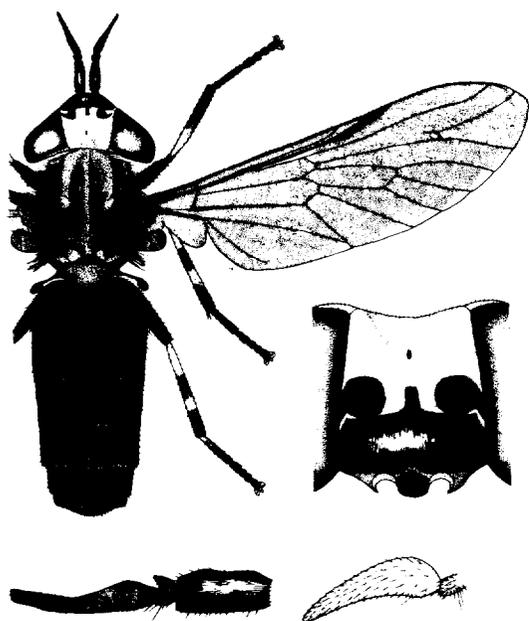
第17図 ナスゴマフアブ *Haematopota nasuensis* 雌成虫



第18図 ヒコサンゴマフアブ *Haematopota hikosanensis* 雌成虫

引用文献

- 1) 早川博文. 1989. 日本産アブ科の雌成虫の分類.
1. アブ属ウシアブ群, アカウシアブ群及びその
関連種. 東北農試研究資料 10: 35-49.



第19図 スルガゴマフアブ *Haematopota surugaensis* 雌成虫

Taxonomy of the Females of Japanese Tabanid Flies
(Diptera:Tabanidae)

2. Genus *Isshikia* and genus *Haematopota*

Hirofumi HAYAKAWA

Summary

Checklist of the females of Japanese tabanid flies was illustrated on 2 species belonging to the genus *Isshikia* and 12 species belonging to the genus *Haematopota*. Morphological features of each species were described with a note of its distribution.